

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1278400088
法人名	医療法人 美篤会
事業所名	グループホーム美しの里
訪問調査日	平成 20 年 12 月 13 日
評価確定日	平成 21 年 1 月 5 日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1278400088		
法人名	医療法人 美篤会		
事業所名	グループホーム 美しの里		
所在地 (電話番号)	〒299-2713 南房総市和田町松田 715-1 (電話) 0470-40-7177		
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成20年12月13日	評価確定日	平成21年1月5日

【情報提供票より】(平成20年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 7.7 人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 2階建て	造り 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(5年間)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.1 歳	最低	73 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中原病院(内科・整形外科・耳鼻科・歯科)
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

南房総市の閑静な住宅街に、平成16年に建てられた南向きの木造2階建てのホームです。敷地はかなり広く、前は広々とした芝生の庭があり、側には梅の木が数本植わっており、裏にはホーム畑があるなど恵まれた環境にあります。このホームのサービスの特徴は、「入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する」ことですが、職員はやさしく、明るく利用者の生活ペースを大事にして対応しています。グループの中核に、地域医療の核になっている総合病院があり、連携強化に努めているので、今後一層の健康・医療面のサービス強化が期待されます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は外部評価を活かして課題の改善に努めています。「外出の工夫」は、外出簿を作り週2、3回利用者を外に連れ出しており、「職員の悩み相談」は、管理者が会議の時に皆と話し合ったり、職員同士で食事に出かけたり、「研修への参加」は、病院と連携して医療面での研修会を開催し改善しています。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は、今回職員の意見を取りまとめて自己評価を作成し、課題を共有して改善に取り組もうとしています。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	管理者は運営推進会議の意義を理解し改善に努めようとしています。平成20年8月に自治会長・老人会長・利用者・家族・職員(民生委員と包括支援センターは都合が悪く欠席)で開催しています。議題はホームの状況と運営推進会議についての説明で、活発な意見の交換はなく、ホーム側がからの報告と説明だけで終わっている状況です。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は、家族の訪問時に利用者の状況を報告し、家族から意見・要望を聞き、随時対応しています。又運営推進会議で意見・要望を吸い上げ、改善し、サービスの向上に努めようとしています。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の特養花の里の納涼祭・中学校の合唱祭・お祭りなどに参加したり、小中学生の職業体験を受け入れています。又、敷地の一部をバス停の待合所として地域に提供しています。自治会には加盟していますが、回覧が廻るようになっていないので、自治会行事の情報を得ていません。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の安心と安全を第一に考え、心から家族と思える介護に専念する」を理念に掲げており、地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるとの観点からの項目は掲げられていません。	○	平成18年の制度改正により、グループホームの基本方針としてそれまでの「家庭的な環境の下で」「地域住民の交流の下で」が加わりました。従って、各グループホームの理念についても、地域密着型サービスとしての役割を目指した内容となっていることが求められています。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	部屋に理念を掲げ、職員は毎朝のミーティング時に唱和し、確認し合っています。又月1回の会議時には、理念に沿ったサービスの取り組みを話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の特養花の里の納涼祭・中学校の合唱祭・お祭りなどに参加したり、小中学生の職業体験を受け入れています。又、敷地の一部をバス停の待合所として地域に提供しています。自治会には加盟していますが、回覧が廻るようになっていないため、自治会行事の情報を得ていないのが現状です。	○	自治会に回覧板を廻してもらい、行事、特に、地域に貢献する行事(掃除・花を植える・草取り・安全パトロールなど)に積極的に参加することが望まれます。又散歩時に挨拶したり、年1回ホームを地域の方に開放しボランティアを呼んで催し物を開催したり、ホームの見学会を開いたりして、交流を深めることが期待されます。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、職員の意見をまとめて自己評価を作成しています。前回課題の「外出の工夫」は、週2、3回外に連れ出しており、「職員の悩みの相談」は、管理者が会議の時に皆と話しあったり、職員同士で食事に出かけたりし、「研修への参加」は、病院と連携して医療面での研修会を開催して改善に努めています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成20年8月に自治会長・老人会長・利用者・家族・職員(民生委員と包括支援センターは都合が悪く欠席)で、開催しています。議題はホームの状況と運営推進会議についてのホーム側の説明だけで終わっており、活発な意見交換は行われていません。	○	定期的に(とりあえず半年に1回位)運営推進会議を開催することとし、その際、外部評価報告・自己評価報告を取り上げて説明し、課題・今後の改善予定・進捗状況などについて参加者と率直に意見交換を図ることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当者とは、その都度訪問したり、電話で相談したりして連携を図っています。地区の同業者連絡会がないので、隣の鴨川市連絡会に参加して行政関係の情報収集に努めています。	○	市の派遣する介護相談員の受け入れを早急に検討することが望まれます。介護相談員からは、色々なアドバイスを受けることができ、サービスの向上につながります。又時間はかかるかもしれませんが、市内の同業者と話し合って会合を開催すれば、市の担当者も出席しやすくなるものと思われま
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	職員は、家族の来訪時に利用者の健康・暮らしぶりを話しています。又美しの里便り(ホーム全体の便り)を月1回、家族に請求書と一緒に送付しています。又、金銭は毎月の生活関連費用を含めた預かり金になっており、家族の来訪時に領収書を添え、台帳を見せて捺印してもらっています。	○	家族は利用者の近況等を知りたいと言っています。毎月の美くしの里便りに加え、利用者ごとに、暮らしぶりや健康状態についての簡単な便りを送付することが望まれます。又、生活関連費用等の支払いは立替払いとし、毎月の請求書に領収書を添付の上加算して請求することにより、手間のかかっている金銭管理の合理化検討の余地があると思われま
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は、家族の来訪時に、家族の意見・要望を聞いて、随時対応しています。又運営推進会議を開催し、家族の意見・要望を吸い上げ、改善し、サービスの向上に努めようとしています。	○	職員は、家族の来訪時に、積極的に利用者の状況を説明して、家族が気軽に意見を言える環境作りを心掛けることが望まれます。又運営推進会議を定期的に開催することにより、家族の意見を汲み上げ運営に反映することが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員には、馴染みの利用者をつくらないように指導しています。又職員が辞める時には、利用者の状況に合わせて、直前に伝えたり、後になってさりげなく伝えるようにして、利用者のダメージを最小限にするように配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は千葉市の認知症ケアの研修・身体拘束に関する講習会を受けています。又、職員には、病院と連携して、研修会(感染症対応・転倒防止など)を開催し、殆ど全員が受講するようにしています。	○	新人研修カリキュラム(総括・マニュアル・OJTなど)の早急な作成が望まれます。又、毎年研修計画を作成し、担当者を決め定期的に社内研修を実施したり、必要な場合は、日勤扱い・費用の負担をも考慮に入れて、職員の経験・スキルを見ながら社外研修への参加を促すことが望まれます。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鴨川市の認知症グループホームの集いや、南房総市の介護支援専門連絡会に参加し、情報交換を行って、日々のサービスの向上に努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族がホームに数回来て、職員や他の利用者と話しをし、団欒の場に加わることで、徐々に馴染めるように配慮しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	午前中は、洗濯物を利用者と職員と一緒に干したり、お昼の食材の買い出し(週3回)に利用者と共に出かけ、材料の皮むきを利用者が手伝うなど、共に過ごし支えあう関係が築かれています。また、畑仕事が好きだった利用者からは、種は捨てないで取っておき、種をまく時期などを教わることもあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	失語症の利用者に対して、表情から喜んでいるのか、眉間にしわをよせていれば何か原因があるのか把握に努めています。また、頑張ってきた利用者には、本人のプライドを傷つけないように気遣いがなされています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の意向を尊重し、管理者と職員が話し合い介護計画を作成しています。週一回の訪問看護では、看護師が医療面にとどまらず精神面のフォローまでしており、職員が利用者の介護計画に活かしています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、半年に一回、行われています。	○	食欲が落ちてきた利用者や、ADLが下がった場合などに随時の見直しが必要と思われます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近くの特養の納涼祭に利用者が参加したり、提携病院に職員が付き添って通院し、将来に利用者の状況変化があった場合に対応できるような支援がなされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からの馴染みのかかりつけ医がいる方には、家族が通院介助をしています。家族が出来ない場合は、職員が対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族との話し合いは行われています。提携病院に療養型の受け入れがある為、入院が必要な場合に家族の意向の把握に努めています。	○	開所から4年半以上が経過しましたが、家族と話し合いはしているものの、書面でのやり取りは行われていません。急に入院になった場合等、家族との話し合いと食い違う場合も考慮し、事前に書面での同意書を交わしておくことが望まれます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助が必要な利用者に対して、他の利用者気付かれないような声かけに配慮がなされています。また、個人別ファイルなどの記録に関しては、鍵のかかる引き出しに保管し、個人情報保護に努めています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時間は利用者により異なるため、朝食に関しては約一時間ずらせるようにし、それぞれのペースを大切にしています。入浴の時間に関しても出来るだけ利用者の希望に添うような支援をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入所時に馴染みの茶碗、お箸、湯飲み、マグカップを持参してもらい、家庭で過ごしていた様な配慮をしています。昼食では、「美味しいね」と会話が弾み、彩りに工夫が見られました。調理が好きな利用者と職員で準備をしたり、お茶のおかわりは利用者が職員に声かけをするという光景もありました。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	平均して二日に一回は入浴が出来るように、声かけをしています。どうしても入りたがらない利用者に対しては、無理強いほしないように努め、清拭にとどめる時もあります。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除の好きな利用者は、居室や共有スペースにとどまらず落ち葉掃きまで好んで行っています。又、ボランティアが畑の草取りに来た時に、畑仕事が好きだった利用者も共に行い、生活歴を活かしています。習字は、ボランティアの方の指導があり、利用者の達筆な習字が壁に貼られています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	歩ける利用者は、約週二回の散歩に出かけています。自然に恵まれた環境にあり、海が見えるコースや山を見ながらのコースなど、変化に富んだ散策を楽しんでいます。遠出は、月に一回程度、花見や買い物、外食の機会を作っています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていません。安全を配慮してセンサーが設置されています。日中は、洗濯物を利用者と職員で干したり、乾けばたたむなどと共に過ごしているので、センサーに頼る必要がない状況です。また、敷地が広いので、利用者が直ぐに道路に出る心配がなく、拘束感のない生活ができています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時対応表・緊急連絡網が掲示され、非常口の明示・各所に消火器が設置され、2階には非常階段と回廊式のベランダがあり、防災に配慮しています。只、防災訓練は年1回所内(利用者と職員のみ)で実施している状況です。	○	年2回の定期的な防災訓練が望まれます。1回は所内の利用者・職員だけで実施し、もう1回は消防署を呼んだ訓練です。消防署を呼んだ際は、救命救急措置講習会(ADE操作など)を合わせて開催し、地域の方にも声をかけて、理解と協力が得られるようにすることが期待されます。又備蓄は3日分位の準備が望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスは職員が配慮し、献立を工夫しています。水分量は、朝・昼・夕食後のお茶、10時と3時におやつと共にお茶を飲んでいきます。散歩から帰った後や入浴後にも、水分補給に努めています。	○	水分摂取に心がけていますが、個人別の日々の記録はされていません。今後は、日々の個別水分量のチェックをし、健康管理に役立てることが期待されます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は全体的にゆったりと造られています。日当たりも良く、廊下には手すりがあり、所々に椅子が置いてあり、利用者が所内を歩行する場合休んだり、団欒できるように配慮されています。室内には、季節の花が飾られ、壁やドアには季節感を出すための飾り・人形・折り紙・写真などが貼られ、皆さん日向ぼっこしながら団欒していたのが印象的です。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者は、居室に馴染みの物(テレビ・机・椅子・箆笥・位牌・写真・絵画・飾り・人形など)を持ち込み、自分の家の自分の部屋のようにして、居心地よく過ごしています。又安全面から部屋の入り口脇に小さな障子覗き窓があり、利用者をさりげなく観察できるように配慮されています。		